

# あか 本の灯り

大塚小学校図書館だより 第3号

学校司書 佐藤直子 2018・6・11



『マララの物語 わたしは学校で学びたい』  
レベッカ・L・ジョージ文 ジャンナ・ボック 絵  
西田佳子 訳 西村書店  
武装集団タリバーンに銃でうたれた少女マ  
ララ。なぜ、銃でうたれることになったのか、  
そのマララはどうなったのか、絵本形式でよ  
みやすく教えてくれる1さつです

## がっこう 学校

そうりつきねんび

6月24日(日)は大塚小学校の創立記念日です。ということで、

6月の特集のテーマは「学校」です。毎日あたりまえのようにかよっている学校を、見つめなおしてみませんか。



### 『がっこうだってときどきしてる』

アダム・レックス文 クリスチャン・ロビンソン 絵  
なががわちひろ 訳 WAVE 出版

入学したばかりのころの、ドキドキした気持ちをおぼえていますか？じつは「がっこう」もドキドキしていたんです。

※青少年読書感想文コンクール・低学年の部の課題図書です。



### 『すごいね！みんなの通学路』

ローズマリー・マーカニー文 西田佳子 訳 西村書店

通学路のとちゅうの川をあるいてわたる、ふねをこいだわたる、空中のロープをつたってわたる。いろいろなやり方で、学校にむかいます。

※青少年読書感想文コンクール・中学年の部の課題図書です。

## かだいとしょ 課題図書、かりられます！

青少年読書感想文コンクールの課題図書がとどきました。公共図書館では予約待ちの本が、今ならすぐにかかりられます。

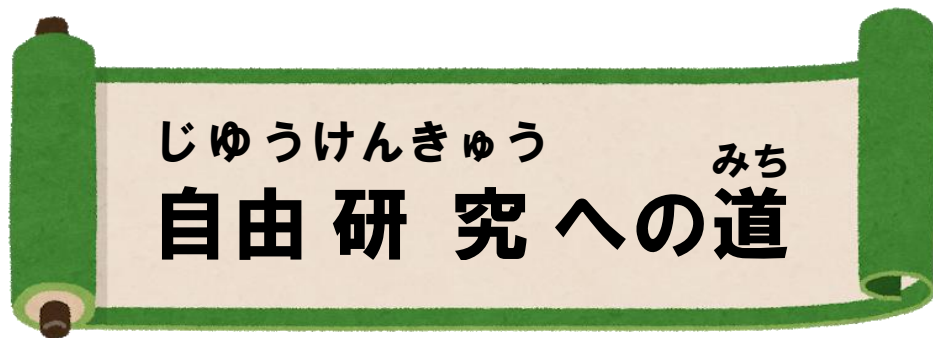


## 夏休みも、図書室！

7月24日(火)

7月31日(火)

プールの時間にあわせて、夏休み中2回開室します。本の貸し出しと返却、自由研究の本さがしのおてつだいもします。時間などくわしいことは、次号「本の灯り」でおつたえします。



# じゅうけんきゅう 自由研究への道

今回は、「しらべ方」について、くわしくとりあげます。

## その1 まずは、<sup>ひゃっかじてん</sup>百科事典！

テーマが<sup>き</sup>決まったら、<sup>ひゃっかじてん</sup>百科事典を引きます。  
<sup>じぶん</sup>自分の<sup>し</sup>知っていることが<sup>ただ</sup>正しいのかたしかめ、<sup>し</sup>知らなかったことを<sup>し</sup>知ることができます。

## その2 テーマは<sup>ぶん</sup>文の<sup>かせつ</sup>形！<sup>た</sup>仮説を立てる！

テーマは「〇〇について」という<sup>かたち</sup>形ではなく、<sup>ぶん</sup>文の<sup>かたち</sup>形にします。  
テーマができたなら、<sup>かせつ</sup>仮説を立てます。<sup>かせつ</sup>仮説とは、「<sup>かんが</sup>こうじゃないかな」と<sup>かんが</sup>考えることです。

たとえば、「<sup>くび</sup>キリンの<sup>なんぼん</sup>首の<sup>なんぼん</sup>ホネは何本あるか」というテーマに「<sup>くび</sup>キリンは首が長いから、<sup>おも</sup>たくさんの<sup>かんが</sup>ホネでできていると思う。」と<sup>かんが</sup>考えることが、<sup>かせつ</sup>仮説です。

参考文献：『調べ方の計画を立てよう』山崎哲男/監修,文研出版,2000

## その3 しらべ方、いろいろ

### 1. やってみる

<sup>じっけん</sup>実験、<sup>かんさつ</sup>観察、<sup>ちょうさ</sup>調査、アンケート。いろいろあります。

### 2. 人にきく

#### ①どこにききにいくか考える

<sup>き</sup>決めたテーマについてくわしい人がいるのはどこでしょう。  
<sup>はくぶつかん</sup>博物館？<sup>どうぶつえん</sup>動物園？<sup>すいぞくかん</sup>水族館？

#### ②なにをきくか考える

<sup>まえ</sup>でかける前に<sup>ぶん</sup>きくことを文の<sup>かたち</sup>形にしておきます。  
<sup>しせつ</sup>施設にいったら、<sup>うけつけ</sup>受付のひとに、だれにきけばいいのかききます。  
<sup>おし</sup>教えてくれたひと、<sup>うけつけ</sup>受付のひとへのあいさつとおれいもわすれずに！

### 3. よんでしらべる

<sup>ほん</sup>本や<sup>しんぶん</sup>新聞、<sup>ざっし</sup>雑誌、<sup>しりょう</sup>パンフレットなどを、まとめて「<sup>しりょう</sup>資料」とよびます。  
<sup>いじょう</sup>かならず2さつ以上みます。<sup>つか</sup>使った<sup>しりょう</sup>資料の<sup>しゅってん</sup>「<sup>しゅってん</sup>出典」もきろくします。<sup>しりょう</sup>「<sup>か</sup>出典」は、<sup>しりょう</sup>資料を書いた<sup>か</sup>ひとの<sup>しりょう</sup>名まえ、<sup>しりょう</sup>資料の名まえ、<sup>しゅつばんしゃ</sup>出版社の名まえ、<sup>つく</sup>作られた<sup>ねんがっぴ</sup>年月日、<sup>つか</sup>使ったページです。

インターネットの<sup>じょうほう</sup>情報で「<sup>しりょう</sup>資料」として使えるのは<sup>つか</sup>国や都道府県、<sup>つか</sup>市区町村などが<sup>つか</sup>作っている<sup>つか</sup>ホームページの<sup>つか</sup>情報です。  
どこのだれがだしたのかわからない<sup>じょうほう</sup>情報は<sup>しんよう</sup>信用できません。くわしいひとや<sup>しせつ</sup>施設、<sup>つか</sup>本をさがす<sup>つか</sup>ヒントとして使いましょう。

『お父さんが教える自由研究の書き方』赤木かん子,自由国民社,201

